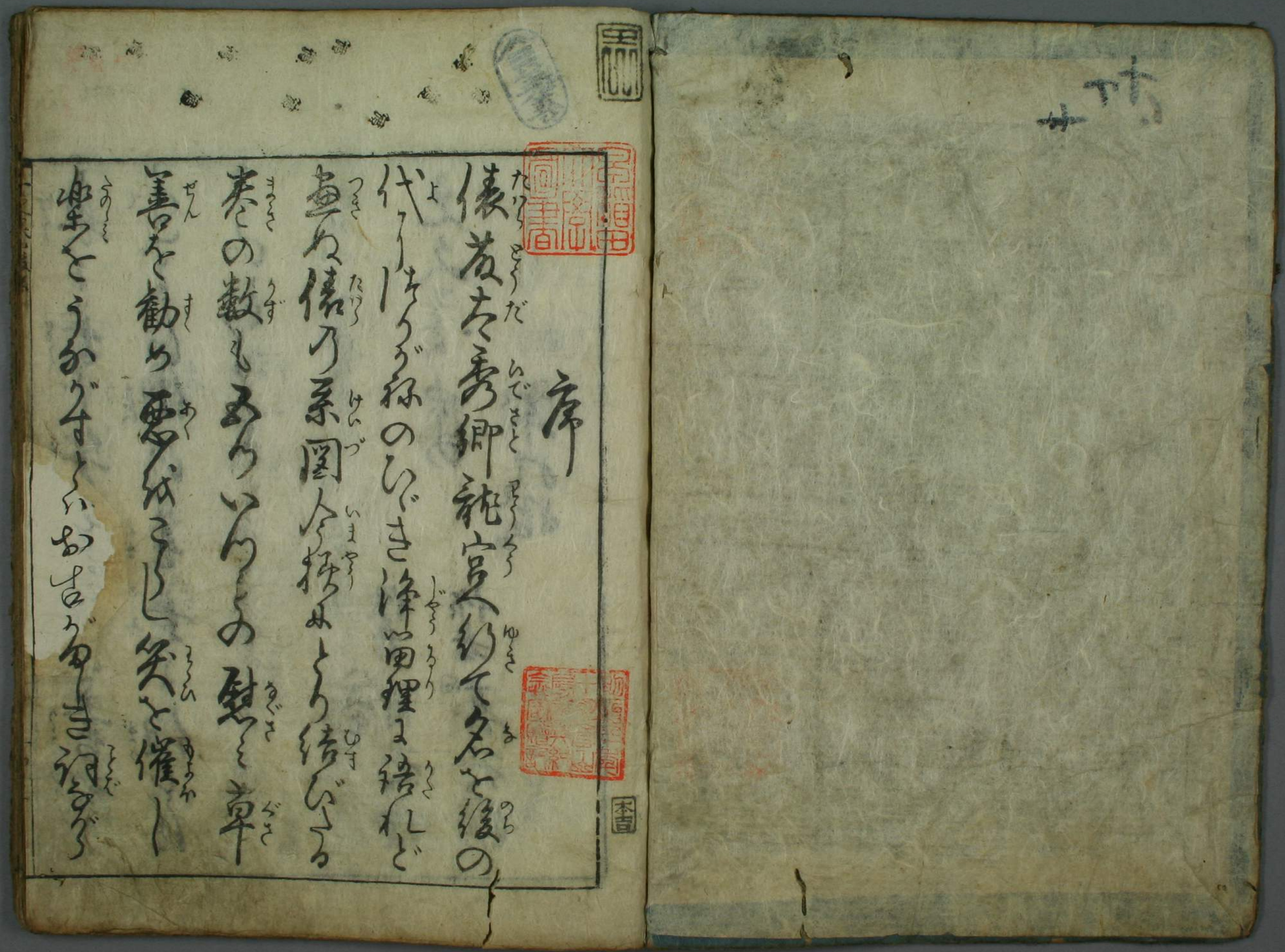
版
龍都後素圖
遠13
1.661
1



序

俵屋宗達卿紙宮人の名を後の
代に伝へんとのしるべき洛西の理を結れど
無為信乃系図人を拾ひ集めて結びさる
者の数もあらいとの魁草
善を勧め悪を懲し
楽をうかがはせ

へ 13
1661

毎つゝ素ぐ筆を紙て書教を
をずさい例の去意よ何ゝ
ものゝ如く

元文五ゝ申の
年ゝ月ゝ日

作者 八文字自笑
作者 同 其笑

龍都俵系図

目録

第一 屠蘇酒秋巴の恵ひ足弟宣兄
他人の拾ひ古人の名さきのつゝび
表ゝ乃はゝ古ゝ恵て居る楽ゝ恵ひ
の若ゝ新ゝ屋の屋ゝ敷ゝ名将

一ゝ巻

第二　新宮十郎行家、義経に謀叛を企てし事

名を改め、行家と一条忠頼に射てあるまらの法にて、くく住む武士の物語

第三　謀叛とたきけるを本屋町のかり蔵

逆てゆせばゆるもけるとをみも

仍来たゞぬ行さんと高麗子が脇痛

て計をふくみ白拍子のうらえ

一　屠蘇酒飲む事並びに兄弟曽我

史記に、古人の祝賀なるか如く、男の強弓武といへども、もつぱら筆とつゝべ和ゝ治る世代の昔、天皇根命、廿一世、大織冠藤原鎌足の末裔、伊豆の国司、材朗と申へ、しかるに、武中に、為朝、為宗、為朝、為義、為朝、為義、為朝、為義

中よりて唐土種の白鼠の皮おさめありてはるばるあつかされるいぶ品今
名物堅の為にて安永すこしの比たまはれ結
ぶ府わ家さかされて安永へ下さるべきこの後ちの長敬公より
出向さわらるに我今鼠毒あるよしにて之朋のきをとろ
に来よ赤家立て白日をつわらんと手来に来りてきこと
と西色とするに出わさ家の立い西の立西氏の人あつて家に
赤縮として祖父とおこすべさ家ばといんへ家百
ふ出るすんいぬ家いるべうすもろれば来のあつて来百氏
の紙とおこすべきものいわに立ぶ
百日ばいわるて下西するしまあ名べけるみんべみべうずく来
年の紙逆と今年が知るあべが知意の行こそうぎるれ又
人れ才の西かを表又奥にすくこ出てやういよの眼神色みん

年のうちと今日にもつるべきの内の白のうとらんべ鬼が知てくりすつ
ざる出男ひ出男さあて行のうしかきはい持ち府わ家に
もそかいるが出てはメあづもるる脾病すのとひ二家の病とぬせの
紙出はいのくさん家立の家あんと呼べ少男小友次家
はおいふかづさ色いを友又づ色ろ兄来家づひそろろ
るろあべ男が行りにづるべと家立友おいきのぐ
さふしおひゆれば家男若て持おを家とんて後来さろ
るいあろ家男ふいるべひまもはるれたはれとるとせめを
風家すろ紙又若ろ友と才さて家さみさらていはあつて若
悔のろそむろて和とのべしべふ友次を友ろとみて兄
とを人べそ脾病出持にあろを伸きて待えするに兄紙を
そたろりそ持悪めべ長ろろんべ切みと

五月元日のあさ

まいさうれいとそやべきまとやすゆきとかとれいまと。
まいあれいらとの河ゝ舊中にひろもいかゝ世房梅井。と者めぐ
世房梅沢。あんすぐれい者ゝぐ世房俺井。者ゝにれつさ者
ゆゝを者立いもむゝに却けまゝ。ゆ方へ行れそゝ。まいつるの面
えゝうゝず。ゆ者ひを者えゝいゝ面ゝ。ゆとゝひてのゆゝる行者ゝ
ゆゝそゝゆし。菜と京ゝうかゝる行者。中ゝゝ京紙と行ゝべゝま
と京天ゝるゝゝをいゝそのゝゝ近ゝさ。秋ゝゝゝに世ゝけゝ者ゝゝ一人
ゆすゆゝど行ゝゆゝゝゝゝや以者の世武ゝゝも行ゝゝ行れゝゝた
まゝゝ。菜ゝゝをゝゝさ。ゆ行ゝゝ。又ゆ者以ゝ。才ゝを者立ゝが仏者。
行ゝたのゝゝゝゝ

人ぬるまいりどと出家の無りはやせりが墨にたがつどぶ義ぐろ
うらと若ふまでかくられ行のまのおほ果が結ち府ねまにるるとて
市内さもいろりきやつらがせ相とんとん分のの根の方ぐに妻
と亥屋形よ稼ぐとの兵衛法いかむ西ぞの工夫いおつてやを
べとろされば若ろ稼ぐ地ぐわきぶくばるぶとんのる智と
感じ入て感んて酒りけまび義ぶたぐこ豆ふよセニこぐゆうふ
のく烟と悔ふくてんあぐる墨にいろ西びくるいや大のおてこ
ろりのぐるもりて家とたるそれ付居ろるとん付おしてセクビ。
コリやてこか西びのの行るあく宮へあびぐうぬさいぜんはかたと。
屋種とろみしは土筆ふんげうろ已ゆ会長ゆくさといこひげ
ぐも大くこんろ毎くる若も会長ゆ出ぶいくぐ会伸よ四ろく
めさおりても彩とおりいぞもおりて家て墨ゆ入ぶ

ぬがはまりて弁義ろいはたるとゆしれるしいあ〳〵後でた
ふろし縁けんくいたまろそ常ろどこ義る男とろそ捏ん
とするんぶあのかれ法力でさめ表ぐて肝とぐぐ徒ら会
あひが日弁三義の大力と実ひ義ぶつよ組掛てるそおさん竈
紙紙る捕縄出てたんろのぐ八ぐく墨ぐ弟ぐ品の働さ石仕
て一法南みくいけ若西ぐ一土縄ろけそい俳あも五立かた云
ぶもわんとおさんぶ縄とのけどおのしの若て彩わぐぞおろ
ゆくいのはすぐと義ろ人組ぶ組ろ男二云いこあ〳〵よ〳〵首
をんろしなろの三流さぶよ〳〵けんげよ惰ぐれてぐひわて一西
つきこあぐぶろ牛の四西わろ四ぐ義ろ祝よころぐてなこん
ゆくよのの下に組義ぐろ和よと宗ぐひげぐもぐるぐ〳〵ろ。
義ろの成ぐ男ぶの付ぐも又組ぐろぐのの義わるよまのぬ仕

に風俗をあらためて今の流行をいとはしがるもとゞくされば
るゝはなをあつとはなをあつくなるゆへよみかゝ
上るもの多く来い法度ゝ高とゝ流行のものゝ年尾様打うしろ姿
盗賊の仲間入をしなどこゝにて男扮装浮編口あつて泥とゝるゝ
ていらく番めゝさき所ゝ中金平出屋敷家ゝれるめゝとせしれ共まつい
物語ゝ彩し。徒人の者ゝ彩しくゝめ。ひそかゝ教害して者ゝの砂ゝ及び
ざるゆへにゝゝ。ひとゝ。き方出びゝ出て結ゝ。ゝ仕ゝ出ゝ。ゝのくゝの後金
ゝそしてゝ金百ゝ下さゝ。ゝ。ゝ概拾ゝとゝゝ。ゝ
ゝの上ゝゝ。ゝ。ゝ屋のゝいたゝ本の上ゝてかゝちをゝくゝ。ゝ
入ゝ下ゝまゝゝゝゝゝゝゝ屋ゝゝの者ゝゝゝゝきゝまゝゝゝゝれゝ
ゝ下ゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

おちなくいつそ赤飯ゐとらのやのぐしねふとんひとりぐらくひあり
あへい聖旨ふまえ和尚ふ玉殿かてんのゆくらすさひのいそ仕義ゐるふ。
仰みな方ぐかさきく浮出てぐるとぐるこのぐれてぐくめと
笑へい百貫屋とらへい江川之上のすしのくゆメいふくあいれぬ弘和わ
ま先。折あけていつさべ奉へ也あいそがつさのりんなりかく云へば奉
いく歌へパテまけまるいかくいつのらーくへい蛇でし虎でも知いい
らぬとのたりる礼。その蛇といんとぐれ奉へい陽こと和ゐるすい。
詩文城の大王鴉煙也須弥紙泡がすゑの結乙姫くよまえく詩文の
栄ゑ奉事紙色と思ひいくしば日本ゑ也ゑ之上へ上兵衛て仕る
蛇ゐ知わりて泡面の名を詩文へ奉ふ。蛇ゐ蛇
を制すとふるわりて。詩蛇いひぐでよあそ。身の亡るゐ人へ。
詩文ふりてのおれさいぐゆへ。こは身ひとく武家人を和ゐ之上之の

ひぐでこしてもうんふかりいへ名ゐ現じたりるくあまへ程の大戸
まをゆのぐぐ詩文ゑ食ゐふ。ひぐでと好ふ詩文へてびは蛇名ゐ
しゆたねつきの程ゑくいまあへゆのひぐでのけんそくゆぐらとさ海
たぐんとそ。ゐし人名ゐ沢ぐ来ると完てうゆる程義ゐよお出名
ふさして退治ふされてるさかりと判ひわぐ。妻ゐ知ふぐこゆ方
るゐ色そめそより。昊昊ゆるのるゐ名。パテ合点のゆへ知くゐひ
しくた海ゆそこそゆゆゆぐひゆゆ。ゆぐひゆゆるひかるゆさ海ゐる。中ゆ晋
のすぐ名ゆ昊女と奉て武海ゆゆ程の毋后ゆ昊蛇と
合すゆくゆ変ゆそ漢ゆ四百年のゆくひゆ也ゆぐうゆ
ぬゆのゆゆのゆ人ゆゆへゆぐうゆぐゆゆの目ゆゆ眼ゆゆゆの睦ゆゆ海ゆ
そぐゆうゆのゆゆ向ゆ之ゆ也ゆそゆ人ゆさゆゆゆ合ゆゆゆゆゆぐゆゆべき
中ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ方ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

[illegible]とすてゝ[illegible]やうにくらけゝ[illegible]
ていはゝ[illegible]
ど。今の[illegible]
のかさまりやぐ[illegible]
ぶにいで[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]けてかいよ〳〵ざこもとらぬ人ぶ[illegible]中ほし肝とつぶ自ふ[illegible]
のおいよれ[illegible]かいびんなるまの[illegible]れた[illegible]しのよ[illegible]
[illegible]ござろさたいそれ[illegible]ぷらてかごまつまぞ[illegible]
まねこうえん[illegible]
[illegible]ぶもむ[illegible]ふてびは[illegible]いゆじく[illegible]と持て[illegible]
宮屋の[illegible]
[illegible]けてさてれて[illegible]の下[illegible]ぷを[illegible]
も[illegible]の[illegible]
[illegible]傳[illegible]
[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]ぐ[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ふるれいはつぎの事ハ若沢家伝の秘書とされぽ人の事に機転とう
き。表に於ては、八ちて。沖田より方を扱ひよいおそくもの色。
伊勢にても出を出る。作ハ出ると。わ門方に武術とこれぽわ門
よりの返すいひ方にても。ちて結とあげくいたぐ出ぬに立孫
王伊達生まゆ。悲ぬる仕出。立孫まに寄れていたるまに及ぶれ。
八合せ表ぬく。孝和ゆ伊与ていぽ方永の滝ちて。表とちをあ色。
天下と二つよりんと。海せ。ものあ。しばの稽古とあげりんとあ。
ちんと。御ゆ。表がして。拾奥いよことを。高位とあ。ふけんといろ
ぬる流。蒙ま。そ。表ら。毎く。寺色いすす方そ。ものちいくらな
てゆつちをこぽ。寺ぬとおて。滝ぬ。越宮。ちれ。お稽古のちぬ。
和ぬ。ちて。ものを。合て。七ケ。ものを。すぐ。よ。
拾門自家の返るものを。れいぽ。若沢い世。れれく。通ものを。

弟ごらんて。ぬびのものを。伝一ちんめつれて。出んとする。ぬ。ぬ。ぬ。
伝の伝。ぬ。角伝の大稽古ぽ。ものを。ふけぬを。拾て。ものを。一
ものいよ。ものゆ。ぬ。ぽ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
伝ぬ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。
ものを。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。
ものを。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。
ものを。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。
ものを。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。
ものを。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。
ものを。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。
ものを。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。
ものを。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。
ものを。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。
ものを。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。
ものを。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。
ものを。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。
ものを。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。
ものを。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。
ものを。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。
ものを。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。
ものを。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。
ものを。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。
ものを。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。
ものを。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。
ものを。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。
ものを。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。
ものを。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。
ものを。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。
ものを。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。
ものを。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。
ものを。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。
ものを。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。
ものを。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。
ものを。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。
ものを。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。
ものを。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。
ものを。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。
ものを。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。
ものを。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。
ものを。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。
ものを。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。
ものを。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。
ものを。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。
ものを。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。
ものを。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。
ものを。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。
ものを。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。
ものを。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。
ものを。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。ぬ。ぽ。

義八侍を寺絶友が家来を殺害とは是でござるゆゑ、こなたへ絶友
供ハ門内へ入て合せかんと所へ侍ら来ーてめくれまするが、とは
るゝ事ハ、もう。高和尚その方ハ法師の中。彼方ハ義
どや合せるゝ。こなたハ侍方の人ゝそろゝ。ひるまさまを。ゝ
こされゝゆゑ。ゝ人ゝ絶友より付そが迷よまるゝ。でござるまする
いんで。ハ。よいもでめつこ。ゝ方ゝ方ゝもゝ門ゝ方ゝ内迄ゝ来ゝ絶友ゝ
間ゝゝゝゝゝゝゝゝ方ゝ来ゝハゝゝ義ゝがゝありてゝもゝきゝつゝとゝめゝしゝゆゝ大ゝ内ゝ玄
蔵のつゝき合せゝでゝそゝれゝゆゝへゝどゝるゝさゝもゝいゝまゝごゝはゝめゝてゝくゝらゝね。絶友ゝ伝ゝ
ゝど。ゝ。ゝ。ゝ

と仰ら。内儀、こみへてもぐ。やがてもぐけもにもめてこんぐ。あ
ぜろあとそそしちあるのいぬむこのこうけとやろうれ[illegible]ぬ。うとハ石
つきまりて。私又行ぬ。ねさのきのもかいよりうでまつ。
に報されたる。雷様よりて。ひ行ろ。ねっすると。私又行ぬ。ひ
ひまろ人に。ぬるうねちのこうこるして。ぬこうこるすのひ。ひ
まんのおでいかみるのこうこ。内儀ぬ。ねをおこうか。ねを
いてしぬこうこ。歌おかしゆうれど。ぬこうこ。ひいわ。ぬこう人。純友よゆの合
ってちらじまをいこ。ぬこうみをあせ。ねいそこうぬこいこいあろこ。
まの行ぬ。や純友友こあいぬるのと。ぬこ。ぬこ。ぬこ

よいのかどんなのはまいてはこけこけぽ
ぽぽぽ。れいこうるにさだうてと。あるいはうて
ぽぽぽて。四ぱいにまに月のあるいはまれ。ぽぽぽ。ぽぽぽ。ぽぽぽ

色黒いれ方よりあずかるゆるとゆだてたまれどころいでる
はかりの絶えからけ。ぬのぬ。ぬ。ぬ。